

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4日29日～

先週は円安がさらに進み、ドル／円は155円もあっけなく突破し、次の節目の160円を目指す展開になりそうです。

日銀による介入警戒感はあるものの155円を超えても動きがないと、ある程度の円安は容認と見られ、高値トライの動きが出やすくなります。

先週の日銀金融政策決定会合では大きな変更はなく、日本国債の買入れ縮小などに動くのではという警戒もありましたが今回は何も無く終わりました。

また、植田・日銀総裁の発言内容から円安を阻止する強い意志も感じられず、NY時間にはさらに円安ドル高が進み、終値で158円を超えるなど160円は時間の問題ともいえる状況です。

このまま円安に対して特に手を打たないと思われると、マーケットはどこまでいけるかドル高を試す動きが続きそうです。

また、日本は連休ですが米国ではFOMCや雇用統計など重要指標の発表が多く、ニュース次第で今週も大きく動く可能性があります。

米国の利下げ予想はどんどん遠のき、今のところ9月に利下げ開始という予想が増えています。年内1回程度の利下げを行うという見方が強まり、年初の年内3回程度の利下げという予想から大きくトーンダウンしています。

米国のインフレが落ち着かないことからFRBも利下げに対して慎重な姿勢になりつつあります。このことが最近の円安ドル高の動きの背景にあります。

また、欧州は米国よりも先に利下げに動くとの予想も増えていますが、こちらも実際にいつ利下げに動くのかは不透明です。

株については、米国株は4月初めの下落からやや持ち直していますがチャートの形が崩れつつあるため本格調整が5月に起こるかもしれません。

欧米では「Sell in May」と言って、「5月に株を売れ」という格言があるほどです。

実際の過去データを見ると6月、8月が特に株価が下がりやすいようです。

ということで、今年は年初から春にかけて株が爆上げした後なので、夏に向けて株が下がりやすい時期に入ってきたことも意識しながら相場の動きを見ていきたいです。

そして、中東情勢についてもイスラエルとイランの争いがいつ再燃するかわからない状況は続いています。

リスク回避的な動きが出れば機敏に動けるようにポジションはしっかり管理していきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週のドル/円は日銀金融政策決定会合後の夕方に急落した後、NY 時間に入って157円を超えるとそのまま上昇が止まらず、終値で158円台前半となっています。

急落があったとしても戻りが早く、中期的なドル高トレンドは継続しています。

引き続き、押し目買い戦略を考えたいですが急落後の戻りが早く、タイミングが難しいです。

155円台後半あたりのサポートを維持している間は強い動きがつかずそうなので、155円割れの動きが出るまでは、155円台、156円台は買っていきたいです。

<気になるクロス円>

クロス円もドル/円の上昇を受けて上昇しているペアが多く、ユーロはついにリーマン・ショック前の高値までできました。このまま170円を超える動きが出るかもしれません。

ただし、ユーロ圏は夏に利下げに動く可能性もあり、そろそろユーロの天井が近づきつつあるのかもしれない。中長期的な目で見ると買うのには高すぎる水準です。

また、ポンドも2015年の高値(196円手前)を超えてきてました。

今週の戦略は、引き続き、下がってきたところを狙って買っていく押し目買いです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では3月鉱工業生産、日銀・金融政策決定会合議事要旨などがあります。

米国では1-3月期四半期雇用コスト指数、2月ケース・シラー米住宅価格指数、4月シカゴ購買部協会景気指数、4月消費者信頼感指数、4月ADP雇用統計、4月製造業PMI(改定値)、4月ISM製造業景況指数、3月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、FOMC政策金利、パウエル・FRB議長定例会見、3月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数、3月製造業新規受注、4月雇用統計、4月サービス部門・総合PMI(改定値)、4月ISM非製造業景況指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで4月消費者物価指数、1-3月期GDP(速報値)、4月製造業PMI(改定値)などがあります。

ほかには、中国で製造業PMI、カナダで2月GDP、英国で4月製造業・サービス業PMI(改定値)の発表などがあります。